

## 教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

福居 奈名絵・臨床教育学コース・博士後期課程3年

国際学会：The 5th IAFOR International Conference on Arts & Humanities in Hawaii

参加地・期間：Hawaii, Honolulu, USA, January 3 - 7, 2025

発表題目：Towards alternative compassion education

From the philosophical perspective

### 成果の概要

#### 自身の研究発表について

今回初めて国際学会における現地発表を体験したが、発表内容全体を規定の25分以内に全て収めることができ、良かったと思っている。又プレゼンテーションの間も、参加者との対話をしたり、最後の数分間に、参加者から私の発表内容に関する質問があったことは大変良かったと思う。勿論私にとって英語は母語ではないため、発表内容の全てを頭に入れて発表するというスタイルをとることはできなかったが、用意していた文章をみながら、時折聴衆に質問を投げかけたりすることができたことは、大きな収穫であった。又発表においては、パワーポイントに文章を写すというよりも、できるだけ発表内容に関する図を見せながら、こちらがそれらに関するポイントを口頭で説明するというスタイルを取ったのが良かったと思う。他の発表者のプレゼンを見た際に、一つのスライドに文章が多すぎたりした為、発表を聞いている側にとっては読むのが困難という事態があり、私の発表時にはそのようなプレゼンの仕方は避けようと思った。

#### 他の研究者との交流、会場の様子、本支援を受けた感想

今回の国際学会の参加者は大学の教員が圧倒的に多かった（参加者全体の70パーセント）。多国籍のメンバーであったが、プレゼンの後、グループセッションの種類によっては、互いに話しかけたりする人が少なかったように思う。又今回の参加者はアメリカ人が圧倒的に多く（アメリカで開催したということもあり）、アメリカ人の個人主義の強さを感じる部分があった。（例：自らの発表が終われば、他の参加者の発表に耳を傾けることなく、さっさと部屋を出ていくなど）又国際学会という場であるにもかかわらず、日本人は日本人とばかりかたまり、アメリカ人はアメリカ人とばかりかたまって交流するという傾向が見られ、少し残念に感じた。共通の話題があり、言葉が何となく通じるという安心感があるためである。今回の学会において一番多く話げたのは、日本の広島大学や、福岡の女子大学から来られていた先生方、そして、筑波大学へ留学中のガーナからの博士後期課程の院生であった。彼らとは、自身の研究内容と彼らの研究内容：AIと教育や、農業について語り合うことができた。

今回ハワイに滞在して強く感じたのは、現地で様々な労働に従事しているアメリカ人や、ホテルに滞在している世界各国からの宿泊客のほうが、大変気さくで、温かく、いろいろと話かけてくれることが多くあり、彼らとの交流の方が（皮肉なようであるが）、私にとって、異文化について、又人間というものについて学ぶことが多かったように思う。（アメリカ人はホテルのエレベーターで乗り合わせた見知らぬ人に対して、直ぐに会話を始める。エレベータートーク（スモールトーク）というものをする。これは日本にはない文化であるので、大変面白かった）

#### 今後の研究活動へのつながり

今回グローバル教育展開オフィスから、国際学会での発表支援を頂き、心から深く感謝申し上げます。又いつも様々な局面でご指導・ご鞭撻下さる指導教員の三澤絃一郎先生にも心から感謝している。異文化・多人数種が共生するハワイへ行き、学会での発表や、研究者間の交流にとどまらず、世界各地からの観光客や、様々な仕事に従事する現地の人々と交流することができ、多様な価値観や生き方、そしてアメリカ（ハワイ）の文化を肌身で感じ、大変多くのことを学び吸収することができた。世界は広く、自らが身を置く学術の世界といっても、それは多様な生き方が交差する世界の中の、ほんの小さな世界の一つであると感じた。ハワイに到着してしばらくは、日本では考えられないような予期せぬことの連続であったが、約一週間ほどの滞在は、中身の濃い充実した素晴らしい滞在となった。

今回初めて現地で開催された国際学会に参加し、グループセッションで自らの研究を発表できたことは、以前よりも自らのポテンシャルに自信が持てるようになるきっかけとなった。“案ずるより産むが易し”とは正に今回の体験を言い表している。今回をはじめりとして、又積極的に国際学会での発表に挑戦してゆきたい。